

豊国十策

豊国十策シリーズ ● 総括
豊国十策からの提案

政策創発
科学技術の課題と
推進の方向性

有識者の声
社会に貢献する
ための科学技術

講演抄録
三菱総研グループ
が提案する
企業経営戦略

講演 DATA

日時 2005年9月16日(金) 15:00~18:30
 場所 三菱総合研究所ビル 2Fセミナー室

三菱総研倶楽部 設立1周年記念セミナー速報

豊かさをつくる

—「豊国十策」のご提案—

昨年10月に発足しました「三菱総研倶楽部」も、お蔭様で本年9月をもちまして1周年を迎えました。そこで、1周年を記念し、去る9月16日(金)に、弊社セミナー室におきまして、設立1周年記念セミナーを開催いたしました。

セミナーの詳細につきましては次号にお届けしたいと思っておりますが、今号では、セミナーの速報をご報告させていただきます。(文責：本誌編集部)



野口 和彦(三菱総合研究所 参与)

第1部では、昨年10月の発足以来、三菱総研倶楽部の年間統一テーマとして取り上げ、検討してきた「豊国十策」について、当社参与 野口和彦と、ラーニング・イノベーション研究部主任研究員 仲伏達也により報告が行われた。

野口参与からは、当社が豊かさを考え始めた背景と豊かさや幸せの関係について報告された。幸せ感に重要な影響を与える豊かさとして、経済性・利便性と他の要素にはバランスが必要で、そのためには豊かさや幸せの社会デザインを創らなければならないとした。また、拡大する格差や将来に対する不安については、個人が選んだ価値観を実現できる制度と支援が重要であると結論づけた。

仲伏主任研究員からは「豊国十策」のまとめとして三か条が掲げられた。三か条は「多様性の確保こそが、重要な共通戦略となる」「つながりを大切にすることが、価値、個性、豊かさを生み出す」「持続性が、豊かさの基盤となる」である。三か条それぞれについて、着目する理由、個人・企業・行政・地域からの視点を指摘するとともに、どうしていくべきかという、それぞれの提言を行い、最後に、「豊国十策」から見えてきた課題として、下記を挙げ、講演を締めくくった。

■ 歴史に学び、超長期の視点で考えることの必要性

<プログラム>

開会ご挨拶	15:00~15:05
第1部【講演】 「豊国十策からの提案」 豊国十策検討チーム 野口 和彦 (三菱総合研究所 参与) 仲伏 達也 (三菱総合研究所 ラーニング・イノベーション研究部 主任研究員)	15:05~15:55
休憩	15:55~16:00
第2部【鼎談】 「市民が豊かさを実感できる国づくり」 北川 正恭 氏 (早稲田大学大学院公共経営研究科 教授) マリ クリスティーヌ 氏 (異文化コミュニケーター) 野口 和彦 (三菱総合研究所 参与)	16:00~17:30
懇親会 (質疑応答コーナーを含みます)	17:30~18:30



仲伏 達也(三菱総合研究所 ラーニング・イノベーション研究部 主任研究員)



(左)北川 正恭 氏(早稲田大学大学院公共経営研究科 教授)
(右)マリ クリスティーヌ 氏(異文化コミュニケーター)

- 日本の良さを伸ばす視点の必要性 (危機感からの発想への偏重、日本のSWOT分析)
- 世界との関係性、地球的な視点の必要性
- 個人にとっての豊かさの視点 (=個人の価値観) の必要性

第2部では、本誌「豊かさを語る」インタビューにもご協力いただいた、早稲田大学大学院公共経営研究科 教授の北川正恭氏と異文化コミュニケーターのマリ クリスティーヌ氏をお招きし、「市民が豊かさを実感できる国づくり」をテーマに、当社参与の野口和彦と鼎談いただいた。

お二人からはさまざまなご意見をいただいたが、北川正恭氏からは、「豊かさの世界は心の世界なので、豊かさについて、こうと決めることは無理であるが、日本には税金による政府と市場主義世界しかなく、豊かさのインフラはない」と危惧された。その上で、真のマニフェストの重要性と、官に頼らない自己実現のための多様なシステム

の必要性などをご提案いただいた。

また、マリ クリスティーヌ氏からは、愛知万博の広報プロデューサーをされたなかでのお話を交えながら、世界各国の幸せ感や戦後間もなくまで持っていた日本本来の豊かさについて、世界と日本との豊かさ感の違いについてなど、お話いただいた。

共通するお二人のご意見としては、地域それぞれの特色が活かせる小さな政府の実現と、それにとまなう情報公開の実現、納得性の重要性などがあつた。

詳細は、次号に掲載させていただく。

なお懇親会には、マリ クリスティーヌ氏にもご参加いただき、会員の皆様と弊社研究員による懇親が行われた。

